

皆さんは世間の動きと TOEIC の評価を正確に把握されていますか？

まず、2011 年度の主要企業の英語の取り組み（週刊ダイヤモンドより）をご覧ください。

●主要企業の英語の取り組み

	採用	昇格・昇進	海外赴任
900 以上			
850 以上	NTT コミュニケーションズ		
800 以上	住友不動産 野村不動産		日本マクドナルド
750 以上		丸紅(入社 5 年) 三井物産(入社 3 年) 三菱商事(課長クラス) 楽天(上級管理職)	
730 以上	ソフトバンク	住友商事(管理職)	住友商事 双日 丸紅 三井物産 三菱商事
700 以上	NTT 東日本 ファーストリテイリング 三菱電機 ヤマト運輸	伊藤忠商事(入社 4 年) シャープ(課長職) ファーストリテイリング(本部管理職)	伊藤忠商事 資生堂 シャープ みずほ証券
650 以上	アサヒビール 佐川グローバルロジスティクス シチズンホールディングス	双日(主任クラス) ソニー(係長級・課長級) ブリヂストン(開発企画職上級)	
600 以上	出光興産 王子製紙 大正製薬 大和ハウス工業 ニトリホールディングス	住友林業(係長) マツダ(課長職)	キヤノン 大成建設
500 以上		クラレ(課長級) コマツ(課長) 帝人(課長) 三菱電機(部長級)	日産自動車

同時に、主要企業 100 社からアンケートを取ったようですが、新規採用の際、英語を評価する企業は 100 社中 71 社で、現時点では 600 点以上を評価の対象としているようです。

ただし、最近では英語の公用語化を行う企業が出てきた上に、外国人採用も加速しています。企業のグローバル戦略を考えた上で、英語を普通に使える人材が必須となってきているのです。

以下はグローバル化を進めている代表企業の動きです。

- 楽天：2012年4月から英語を公用語化。12年度中に完全実施し、会議から電話、社内メールまで原則全て英語とする。
- ファーストリテイリング：2012年3月から英語を公用語化。母国語が異なる参加者がいる会議は英語で行い、世界で共有する書類は英語にする。
- 双日：英語の公用語化を検討中。
- 日本電産：2015年から課長代理以上の管理職昇進に外国語1カ国語、2020年から部長昇進に外国語2カ国語の習得を義務付ける。
- 野村ホールディングス：グローバル型社員は初任給54万2000円で、投資銀行業務などに配属される。TOEIC860点以上。
- パナソニック：新卒の8割を海外で採用する。2011年度、新卒社員1390人のうち1100人は海外の現地外国人を採用した。
- 伊藤忠商事：英語でインターンシップ研修を実施。

このように国際社会において、英語を使用することは必須となってきました。この流れは大手企業だけではなく、中小企業や個人事業主レベルにまで及んできています。

各企業では、英語を使える人材確保が必至であり、現状においては個人の英語レベルを評価する指標として

TOEICを使用しています。

現在の日本企業の最低英語力評価は TOEIC 600 点以上。

しかし、現実的に世界基準を考慮すると、早急に TOEIC 800 点が最低レベルとなるでしょう。実際、このスコアでようやく世界のスタートラインに付くことができるからです。TOEIC で 800 点以上取れても、英語力があるとは評価されないだけでなく、むしろ、800 点未満だと、仕事に支障をきたす人材だという評価となってしまいます。

- 実際にピンと来ない方も多いでしょうから、韓国の実情をお知らせいたしましょう！

以下は韓国の主要企業が求めている TOEIC のスコアです。

920 点	サムスン(中核人材 A 級)
900 点	サムスン(新入社員足切り) LG(新入社員平均)
800 点	サムスン(既存社員基準) LG(新入社員足切り) ヒュンダイ(新入社員足切り)

韓国の主要企業では、日本企業よりもはるかに高い点数が要求されています。つまり、国際社会を生き抜くための人材として、TOEIC が 800 点に満たない者は、戦力にならないという認識になっているのです。

しかも、現実的にグローバル化の加速に伴い、社員の英語力は国際競争力に大きく反映しています。

サムスンの海外売上高比率は 87%です。それに対し、日本のソニーは 75%で、パナソニックは 47%しかありません。

- ー それでは、そのサムスンでは TOEIC の点数をどう評価しているのでしょうか？

サムスンでは、2005 年に、新入社員 900 点以上、既存社員 800 点以上という TOEIC 基準を設けています。最近では、等級として、A 級は 920 点以上、S 級はさらに、流暢な会話と筆記の能力が要求されます。A 級以上でなければ、課長クラスへの昇進は不可能です。そして、920 点未満では事実上、解雇されてしまいます。

また、現時点で、全社員の 90%以上が A 級以上だと言われています。

このように、世界では日本よりも遥かに国際競争の意識が高く、TOEIC レベルのテストでは、900 点が最低ラインと感じているのです。

しかも、サムスンが S 級という等級を評価しているように、実は TOEIC のスコアでは、最低限の英語力、つまり英語を受信し、認識できるという能力しか判断できないのです。

それでは、ETS が公表する「TOEIC スコアとコミュニケーションレベルの評価」をご覧ください。

レベル	TOEIC スコア	評価
A	860 点～	Non-Native として十分なコミュニケーションができる。
B	730 点～855 点	どんな状況でも適切なコミュニケーションができる素地を備えている。
C	470 点～725 点	日常生活のニーズを充足し、限定された範囲内では業務上のコミュニケーションができる。
D	220 点～465 点	通常会話で最低限のコミュニケーションができる。
E	～215 点	コミュニケーションができるまでに至っていない。

ETS がなぜこのような相関表を公開したのかは分かりませんが、ご存知の方も多いように、実際は TOEIC スコアと実用英語力は乖離しています。

TOEIC 900 点を取得していても英語を話せない人、書けない人はたくさんいます。「日本人は英語を読んだり、書いたりするのは得意だ」という妄想を未だにもっている人がいますが、有名国立大学の大学院生たち(海外の文献を読んで、論文を発表しなければならない人たち)でさえ、ほとんどが、まともな英文を書けず、英語で論文発表することに困っています。(現在は理系の方が遥かに英語を使用する機会が増えています。)

それでは、上記の ETS が公表している換算表を、実用英語(使える英語)力に変換するとどうなるでしょうか？

レベル	TOEIC スコア	評価
A	900 点～	リーディング・リスニングという点では、世界でコミュニケーションが可能。
B	800 点～895 点	重要な詳細情報を取得できないため、仕事に多少支障がでる。
C	700 点～795 点	簡単な電話や E-mail 対応などルーティーンの業務は可能。
D	600 点～695 点	日常業務で英語に触れても、それほど抵抗は感じない。
E	～595 点	業務上、英語を使用することは難しい。

実は、TOEIC のスコアを実用レベルに落とし込むと、このような評価が妥当だと考えられるのです。

つまり、今後の流れとして、TOEIC のスコアで 800 点未満は履歴書に書くほどのものではなく、800 点以上のスコアを記載できないことは大きなマイナスとなっていく可能性が高いのです。

その証拠に、すでに TOEIC を足切りのツールとして活用している企業は増加しており、武田薬品工業も 2013 年春入社の新卒採用から 730 点の足切り基準を設けると公表しています。この傾向は、今後、数年以内に、何十倍にも拡大することでしょう。

TOEIC のスコアなんかでその人の能力を測ることは出来ないと考える人も多いでしょうが、現実には、TOEIC で 800 点も出せない英語力では、日常業務に支障をきたすために、その個人の能力が欠けていると言わざるを得ない時代がすぐそこまで迫っているのです。

たかが、TOEIC ですが、されど TOEIC なのです。

【 TOEIC の特徴 】

すべてのものに、良い点とそうでない点があるように、TOEIC にもプラスの点とマイナスの点があります。

とくに、私たちは、子供のころからテストで評価される社会で生きてきたために、テストに支配される傾向がとても強くあります。

◎ TOEICの良い点とは

- ① 言葉の本質が「音声と意味」であると、うたっていること。
- ② 重箱の隅をつつくような文法問題を極力避けた、実践的な問題を出していること。
- ③ 四択問題としては、非常に精度が高いテストであること。

そのため、TOEIC の学習には、一定の英語力を「伸ばす力」が含まれています。

- 重箱の隅をつつくような無意味な文法・語法問題を出さないため、速読力や速聴力をつけることが可能です。
- 「問題の質」という点で非常に優れており、「上手なテスト対策」を行うことで、本物の英語力の素地を固めることができます。

× TOEICについて注意すべき点

TOEIC について注意すべき点は、TOEIC が、あくまでも「テストである」ということです！

—— ここをよく理解することが、効果的なテスト対策、また、本当に使える英語力に直結します。

- テストの限界を知らなければなりません

テストはそれがどのようなものであろうと、英語力の「一部」しか測定できません。TOEIC も、同じです。

TOEIC 委員会(ETS)は、スコア換算表を公開しています。しかし、「TOEICのスコア」と「会話力」や「ライティング力」の間には、示してあるような相関性はありません。TOEIC はあくまでも、受信力、つまり、「リーディング力」と「リスニング力」のみを測定するためのテストなのです。そのため、TOEIC800 点や 900 点を獲得している人でも、英語を話したり、書けない人が“ゴロゴロ”いるのです。

- ※ 「リスニング力」や「リーディング力」については、TOEIC はかなり正確に測ることができます。

だからこそ、その点を意識して、正しく勉強すると、最も効果的にスコアをあげることが可能であり、その努力も「本物の英語力」を身につける上での強力な基盤へと変わります。